

# 総合評価落札方式における 評価基準の見直し等について

---

近畿地方整備局  
令和6年12月

## 1. 各種試行タイプの評価

各種試行タイプについて目的の達成度、工事成績への影響、受発注者からの意見等の観点からPDCAサイクルに基づく検証を実施。

※今回は、『営繕チャレンジタイプ』、『機械チャレンジタイプ』、『電通チャレンジタイプ（通信設備工事）』及び『電通チャレンジタイプ（受変電設備工事）』でPDCAを実施

## 2. 新たな取り組み

自治体実績評価タイプ（若手技術者評価型）の新設  
若手技術者に対する表彰制度の新設  
S型（技術向上提案型）の新設

## 3. 評価方法の見直し

WLB認定制度による加点

## 4. その他

発注標準の見直しについて  
受発注者の負担軽減を図る取り組みの拡大

# 1. 各種試行タイプの評価

国土交通省直轄工事における  
総合評価落札方式の運用ガイドラインより

## ■ 総合評価落札方式のタイプ

品質の求め方は、**企業と技術者の施工能力（実績・経験）**を求めて評価する**施工能力評価型**、参加者から各工事で定めたテーマの**技術提案**を求めて評価する**技術提案評価型**がある。

	施工能力評価型		技術提案評価型
提案内容	企業が、発注者の示す仕様に基づき、適切で確実な施工を行う能力を有しているかを、企業・技術者の能力等で確認する工事	企業が、発注者の示す仕様に基づき、適切で確実な施工を行う能力を有しているかを、施工計画を求めて確認する工事	施工上の特定の課題等に関して、施工上の工夫等に係る提案を求めて総合的なコストの縮減や品質の向上等を図る場合
評価方法	求めない(実績で評価)	施工計画	施工上の工夫等に係る提案
ヒアリング		可・不可の二段階で評価	点数化
段階選抜		実施しない	必要に応じて実施
予定価格	標準案に基づき作成	実施しない	WTO対象工事のトンネル工事等で実施
	II型	I型	S型



本官	3 億円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">非WTO</div> <small>※一般土木難易度Ⅲ以上は 技術提案も評価(SⅢ型)</small>	8.1 億円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">WTO</div> <b>テーマ1つ (SⅡ型)</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">WTO (トンネル等)</div> <b>テーマ2つ (SⅠ型)</b>
分任官		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">維持修繕、土工等</div> <small>工事難易度Ⅰ～Ⅱ</small>	3 億円	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">構造物等</div> <small>工事難易度Ⅲ以上</small>	

# 1. 各種試行タイプの評価

- 近畿地方整備局では、目的に応じて以下のとおり試行タイプによる発注を実施している。

## 【施工能力評価型】

参加機会促進	担い手確保	品質確保	説明
①施工能力確認タイプ※			技術点は付与せず、競争参加資格のみ審査する形式
②自治体実績評価Aタイプ ③自治体実績評価Bタイプ			実績・表彰等の評価以外の項目で評価する型式
④地域密着防災担い手タイプ			企業の地域貢献・地域精通度を評価する型式
⑤⑥電通 ⑦機械 ⑧営繕チャレンジタイプ			専門工事業において企業及び技術者要件を緩和した型式
⑨参加機会拡大タイプ			3億円以上WTO未満の工事に限る
	⑩若手・女性チャレンジタイプ		若手または女性の技術者の現場登用を高く評価する型式
	⑪現場従事技能者評価タイプ		企業の現場従事技能者の配置を評価する型式
負担軽減	一括審査方式		複数工事を一つの技術提案で評価する型式
不調不落対策	(社会条件に配慮した工事)		社会条件に配慮した工事を完成させた企業に対してインセンティブを付与する形式

## 【技術提案評価型】

参加機会促進	担い手確保	品質確保	説明
		新技術導入促進(Ⅱ)タイプ	新技術を活用する提案を評価する型式
負担軽減	一括審査方式		複数工事を一つの技術提案で評価する型式
	段階的選抜方式		技術提案評価により上位を絞り込み選抜する型式

※①施工能力確認タイプは新型コロナ等の緊急対応が必要な場合以外は原則使用しない。

# 1. 各種試行タイプの評価

- 各種試行タイプの概要とPDCAの実施スケジュールは以下の表のとおり。概ね3年に1回のペースでPDCAを実施。

目的	試行タイプ 【開始年度】	概要	PDCAの実施状況			
			R4	R5	R6	R7
企業の参入機会促進 担い手の確保	自治体実績評価Aタイプ 自治体実績評価Bタイプ 【R4(改R5)】	・国土交通省発注工事の実績が無い(少ない)企業であっても、地域社会の安全・安心の確保を担う担い手の確保を目的に「工事の手持ち状況」等を評価する方式	●	●		
	地域密着防災担い手タイプ 【H28(改R5)】	・災害発生時に迅速に活動できる地域の施工業者に対し、直轄工事への入札参加を促して安全・安心の担い手を将来にわたり確保することを目的に防災に関わる取り組み体制や活動実績、災害に使用できる建設機械の保有状況等を評価する方式。	●			○
	電通チャレンジタイプ (通信設備工事) 【H27】	・電気通信工事の資格を持った技術者に対し監理(主任)技術者としての経験を積ませることを目的に、技術者の能力は求めずに、企業の施工能力のみで評価する方式。			★	
	電通チャレンジタイプ (受変電設備工事) 【H28】	・企業及び配置予定技術者について、成績評定点では評価せず、企業の地域内工事の実績や技術者の経験で評価する方式。			★	
	機械チャレンジタイプ 【H28】	・監理(主任)技術者としての経験を積ませることを目的に国土交通省発注工事の経験がない技術者でも参加できるように、配置予定技術者の施工能力について評価しない方式。			★	
	営繕チャレンジタイプ 【H31(改R5)】	・中長期的な技術者の確保・育成に配慮することを目的に、成績評定・表彰での加点は行わず、新技術の活用や現場従事技能者の配置・同種の施工実績や地域内工事の実績で評価する方式。	●		★	
担い手の確保	若手・女性チャレンジタイプ 【H26】	・国土交通省発注工事の主任(監理)技術者となるべく、経験を積んでもらうことを目的に40歳以下の若手・女性技術者を「監理(主任)技術者」又は「現場代理人」として配置する場合に加点をする方式。	●	●		○
工事の品質確保 担い手の確保	現場従事技能者評価タイプ 【H30】	・現場従事技能者の配置を高く評価することにより、技能労働者の資格保有者の増加を促し、新たな技能労働者の増加を期待し、工物品質の向上を図る方式。		●		
企業の参入機会促進	施工能力確認タイプ 【R2】	・円滑な発注および施工体制の確保を図ることを目的とし、技術点を設定せず、基礎点、施工体制点及び賃上げ評価点を入札価格で除した評価値で評価する方式。	●			
	参加機会拡大タイプ 【H29】	・入札参加企業の参加意欲を促進するため、評価項目における企業の工事成績について全地整における「同種工事实績の工事成績評定」で評価する方式。			★	

# 1. 各種試行タイプの評価

- 今年度PDCAを実施する試行タイプは以下の5タイプ。それぞれの点検結果は以下のとおり。

目的	PDCA対象試行タイプ	概要	PDCA実施履歴	今回点検結果
企業の参入機会促進・担い手の確保	営繕チャレンジタイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中長期的な技術者の確保・育成に配慮する。</li><li>・ 成績評定・表彰での加点は行わず、新技術の活用や現場従事技能者の配置・同種の施工実績や地域内工事の実績で加点を行う。</li></ul>	1回目 R6年度（今回）	継続
企業の参入機会促進・担い手の確保	機械チャレンジタイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 直轄での発注工事の経験がない技術者でも参加できるようにすることで、機械設備工事における競争参加者数を増やし競争性を高めること及び実務経験の少ない技術者に対して監理（主任）技術者としての経験を積ませることを目的に試行。</li></ul>	1回目 R6年度（今回）	継続
企業の参入機会促進・担い手の確保	電通チャレンジタイプ （通信設備工事）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 建設業法における電気通信工事の資格を持った技術者に対して監理（主任）技術者としての経験を積ませることを目的に試行</li><li>・ 配置予定技術者について、同種工事の経験は問わない。総合評価において、技術者の能力等は求めずに、企業の施工能力のみで評価。</li></ul>	1回目 R6年度（今回）	継続
企業の参入機会促進・担い手の確保	電通チャレンジタイプ （受変電設備工事）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 府県・政令市以外の自治体の実績等も加点評価することで、直轄工事への参入を促し、地域社会の安全・安心の確保を担う担い手を確保することを目的とする。</li><li>・ 直轄工事の実績が加点となる成績評定、表彰等の評価の項目を除外。</li></ul>	1回目 R6年度（今回）	継続
企業の参入機会促進	参加機会拡大タイプ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一般土木B等級について近畿地整での工事成績評定を有する企業数が減少。</li><li>・ 入札参加企業の参加意欲を促進するため、評価項目における企業の工事成績について近畿地整における過去4年間の平均点から全地整における「同種工事实績の工事成績評定」での評価に変更</li></ul>	1回目 R5年度（今回）	標準方式 に移行

# 1. 各種試行タイプの評価（営繕チャレンジタイプ）

## P：計画

- 中長期的な技術者の確保・育成に配慮する。
- 地方公共団体又は民間発注工事は、成績評定点の加点の対象ではないため、総合評価の点数が低い傾向にある。
- 成績評定・表彰での加点は行わず、新技術の活用や現場従事技能者の配置・同種の施工実績や地域内工事の実績で加点を行う。

### 競争参加資格

- 企業及び配置予定技術者ともに、標準と同様

### 対象工事

- 2億円未満かつ難易度Ⅲ以下の工事（建築工事、電気設備工事、暖冷房衛生設備工事）。

### 総合評価

- 技術評価点の配点は、企業の施工能力（20点）＋配置予定技術者の能力（10点）＋賃上げ実績（2点）

【営繕チャレンジタイプの配点】

分類	評価項目	配点		
施工能力等	同種性の高い施工実績(過去15年)	最大 8	最大 20	
	工事成績評定(近畿地方整備局(港湾空港関係を除く。)発注の工事及び工事成績相互利用対象工事における工事成績評定の平均点(過去5年))	—		
	表彰	優良工事等施工者(過去5年)		—
		コンクリート構造物品質コンテストの表彰(過去1年)		
		下請企業表彰(過去1年)		
		近畿建設リサイクル表彰(過去1年)		
	有用な新技術の採用	最大 1		
	現場従事技能者(登録基幹技能者・建設マスター・現代の名工)の配置	最大 3		
	コンクリート構造物品質コンテストの表彰(技能者)			
	※現場従事技能者の配置が無い場合は、加点対象外とする			
	地域内工事の実績(過去5年)	6		
	建設業事業継続計画(BCP)認定の有無	—		
災害活動に対する表彰(過去2年)	最大 2			
自由枠	—			
配置の予定技術者	同種工事の経験における監理技術者等としての施工経験の有無(過去15年)	4	最大 10	
	同種性の高い施工経験(過去15年)	4		
	同種工事の経験についての工事成績評定点(過去10年)	—		
	技術者表彰(過去5年)	—		
	継続学習制度(CPD)	2		
評価項目		配点		
賃上げの実施を表明した企業等		2		

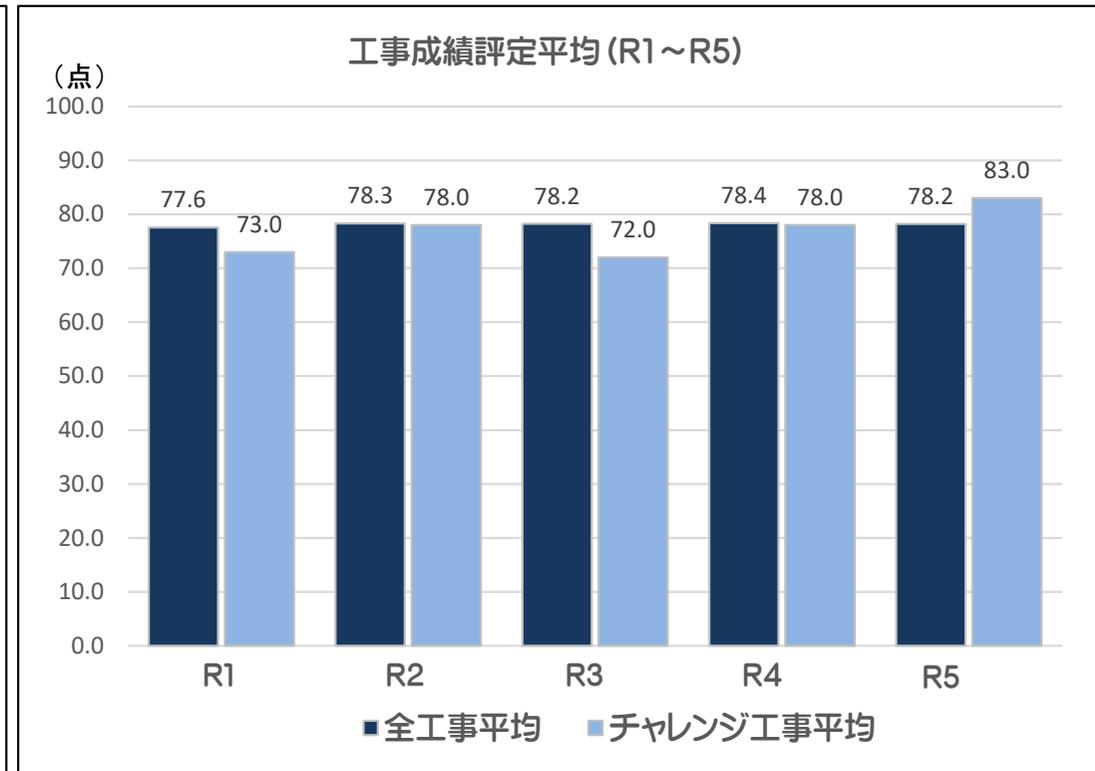
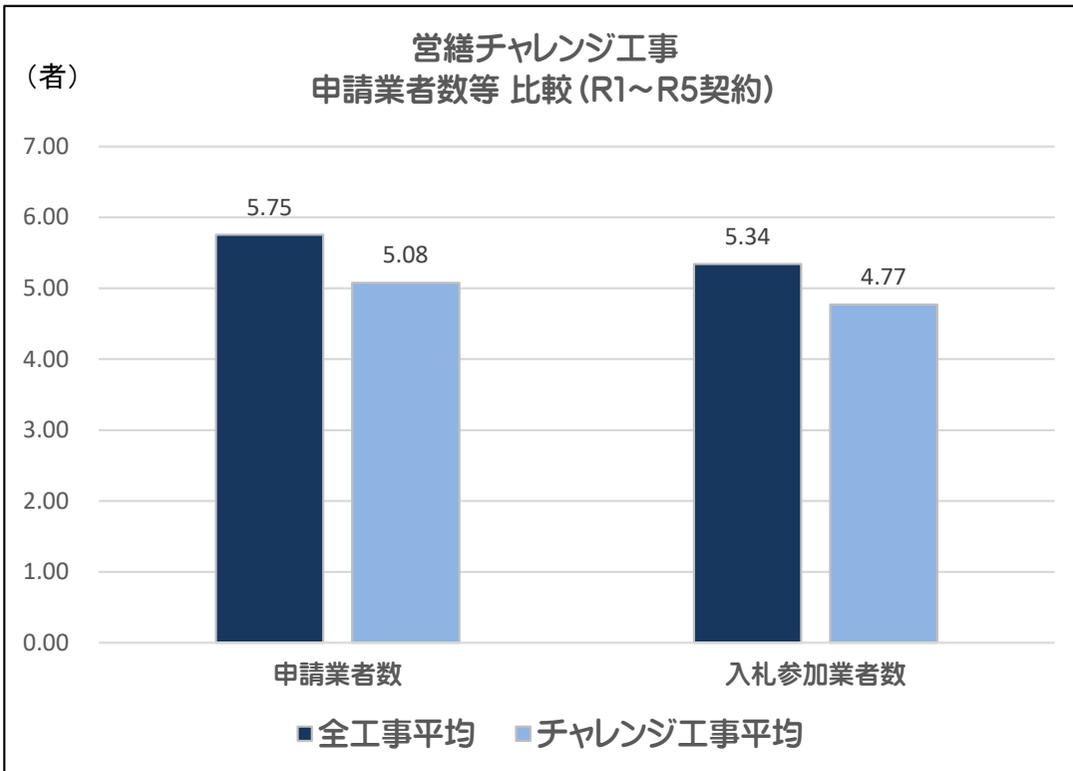
# 1. 各種試行タイプの評価（営繕チャレンジタイプ）

## D：実施

- R元年度～R5年度に13件の工事を営繕チャレンジタイプで発注した。

## C：評価

- 営繕チャレンジ工事で発注した工事の申請業者数及び入札参加業者数は、通常の発注方式で発注した工事より少なかったが大きな差はない状況だった。
- 工事成績評定については通常タイプと大きな差はなく品質に問題はないと考えられる。

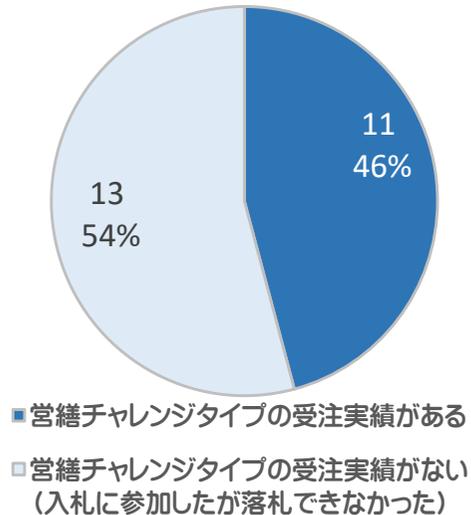


# 1. 各種試行タイプの評価（営繕チャレンジタイプ）

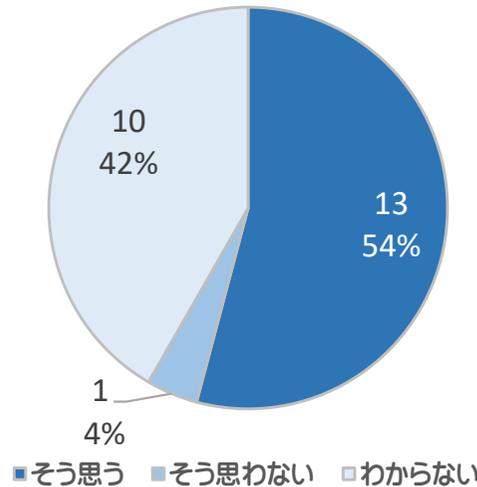
## C：評価

- 営繕チャレンジ工事の入札参加者を対象にアンケートを実施した。49社に依頼し、24社からの回答を得た。
- アンケートの回答者は11社が受注実績がある社で13社は受注実績のない社だった。
- 半数以上の回答者から本試行タイプは目的に寄与しているとの回答を得た。「わからない」と回答した者を除けば目的に寄与していないと回答した社は1社のみだった。
- ほぼ全ての社が今後も営繕チャレンジ工事に参加したいとの回答だった。

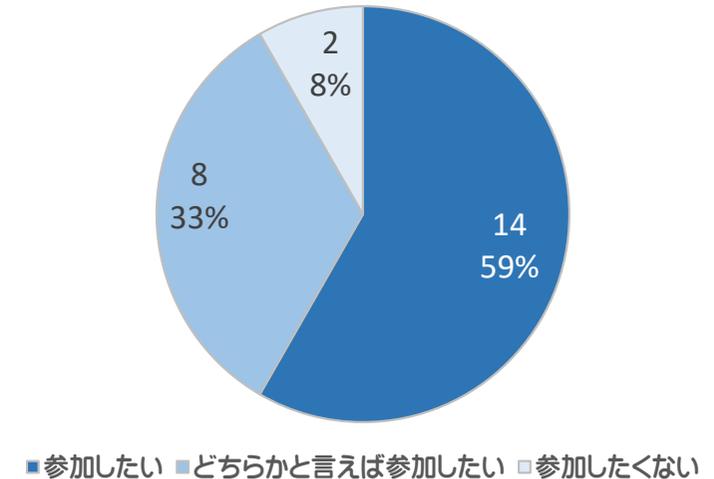
アンケート回答者の属性



試行タイプが目的に寄与しているか



今後の営繕チャレンジタイプの工事に参加したいか



アンケート概要

調査期間：R6.9.20～R6.10.11

対象者：過去に営繕チャレンジタイプの入札に参加した者

対象者数：49社

調査手法：WEB調査

## A：対応

### 継続

- 工事の参加者数及び品質に問題はなく、アンケート結果から試行実施に肯定的な意見が多く目的に寄与していると考えられることから引き続き試行を継続する。

# 1. 各種試行タイプの評価（機械チャレンジタイプ）

## P：計画

- 直轄での発注工事の経験がない技術者でも参加できるようにすることで、機械設備工事における競争参加者数を増やし競争性を高めること及び実務経験の少ない技術者に対して監理（主任）技術者としての経験を積ませることを目的に試行。

### 競争参加資格

- 配置予定技術者の要件として、同種工事の施工経験は問わない。

### 対象工事

- 工事種別は、機械設備工事
- 具体的な工事種類は、以下のとおり。
  - ①機械器具設置工事・・・道路排水設備、共同溝付帯設備、車両重量計・計測設備、消融雪設備
  - ②鋼構造物工事・・・河川用小型ゲート設備（扉体面積50m<sup>2</sup>未満）
- 技術的難易度が比較的低い、工事難易度がⅡ以下の工事

### 総合評価

- 技術評価点の配点は、企業の施工能力（20点）＋賃上げの実施を表明した企業等（2点）
- 企業の施工能力については、表彰及び工事成績優秀企業認定は評価しない
- 配置予定技術者の施工能力については、評価しない

### 【機械チャレンジタイプの配点】

分類	評価項目	配点	
企業の施工能力	同種性の高い施工実績	4	最大20
	近畿地整の過去の4年間の工事成績評定平均点	5	
	表彰 ・優良工事等施工者表彰 ・コンクリート構造物品質コンテスト表彰 ・下請企業表彰 ・近畿建設リサイクル表彰 ・インフラDX大賞（本省） ・工事成績優秀企業認定 ・インフラDX認定	-	
	有用な新技術の活用	最大1(2)	
	《ICTの活用(i-Construction)》	-	
	現場従事技能者の配置	最大3(0)	
	コンクリート構造物品質コンテスト技能者表彰		
	ISO9000シリーズ認証取得	1 (2)	
	地域内工事の実績	3	
	災害協定の締結	- (1)	
	建設業事業継続計画(BCP) 認定の有無	1	
	災害活動に対する表彰	最大2	
	自由枠	-	
	配置予定技術能力	監理(主任)技術者等としての同種工事の経験	
同種性の高い施工経験		-	
同種工事の経験についての工事成績評定		-	
技術者表彰		-	
継続学習制度(CPD)		-	
	《舗装施工管理技術者資格》	-	

※1：企業の施工能力欄の（ ）内は、現場従事技能者の対象工種がない場合

評価項目	配点
賃上げの実施を表明した企業等	2

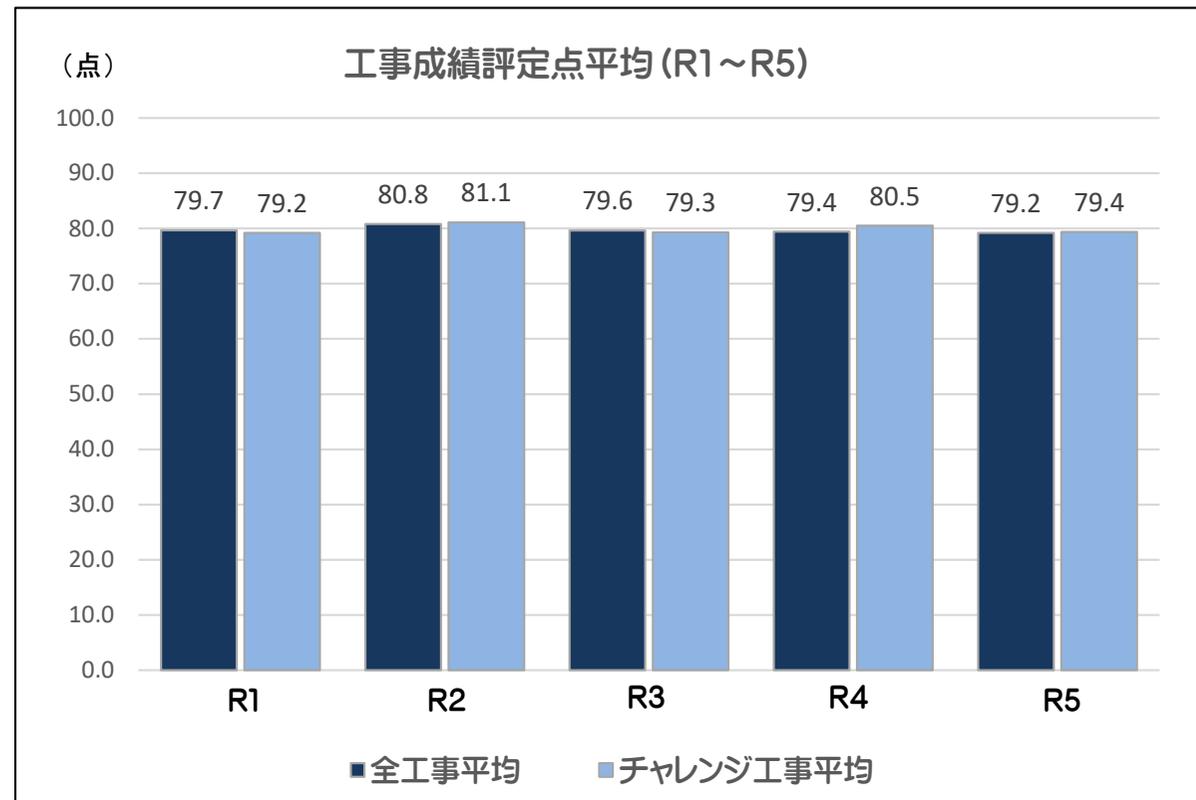
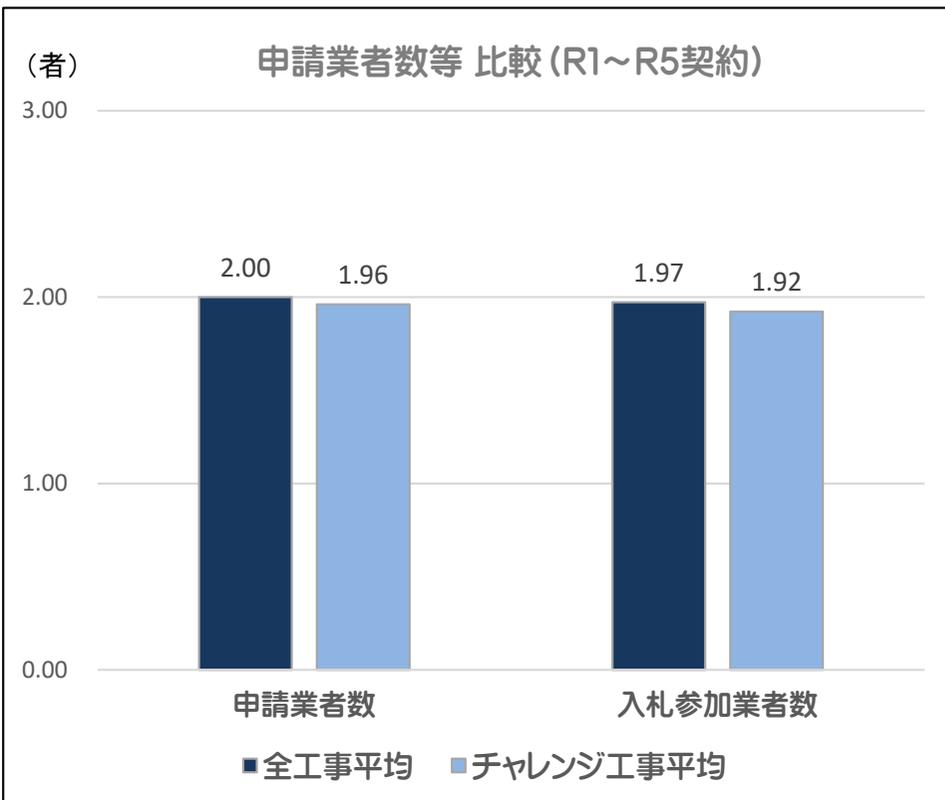
# 1. 各種試行タイプの評価（機械チャレンジタイプ）

## D：実施

- R元年度～R5年度に77件の工事を機械チャレンジタイプで発注した。

## C：評価

- 機械チャレンジタイプで発注した工事の申請業者数及び入札参加業者数は、通常の発注方式で発注した工事とほとんど差がない状況だった。
- 工事成績評定については、通常タイプとほとんど差がなく品質に問題はないと考えられる。

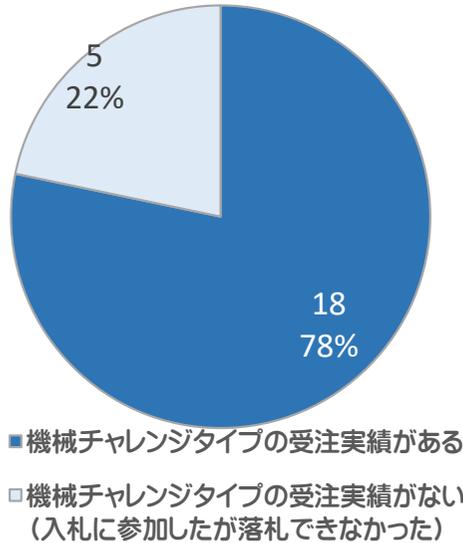


# 1. 各種試行タイプの評価（機械チャレンジタイプ）

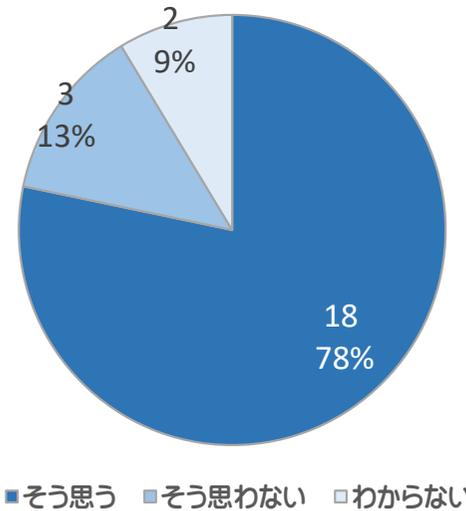
## C：評価

- 機械チャレンジ工事の入札参加者を対象にアンケートを実施した。30社に依頼し、23社から回答を得た。
- アンケートの回答者は18社が受注実績がある社で5社が受注実績のない社だった。
- 約8割の回答者から本試行タイプは目的に寄与しているとの回答を得た。目的に寄与していないと回答した社は3社であった。具体的な意見としては、「競争性を高める事は必要だが、参加要件が甘すぎる」等の意見があった。
- 今後参加したくないと回答した社はなく、全ての社が今後も機械チャレンジ工事に参加したいとの回答だった。

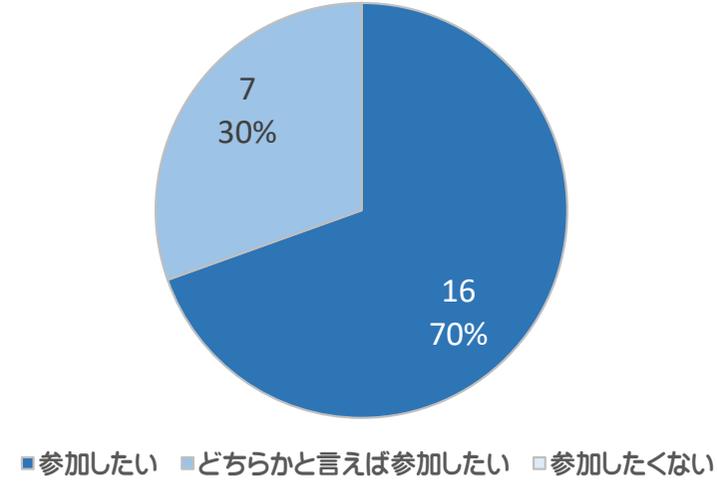
アンケート回答者の属性



試行タイプが目的に寄与しているか



今後の機械チャレンジタイプの工事に参加したいか



### アンケート概要

- ・ 調査期間：R6.10.4～R6.10.18
- ・ 対象者数：30社

- ・ 対象者：過去に機械チャレンジタイプの入札に参加した者
- ・ 調査手法：WEB調査

## A：対応

### 継続

- 工事の参加者数及び品質に問題はなく、アンケート結果から試行実施に肯定的な意見が多く目的に寄与していると考えられることから引き続き試行を継続する。

# 1. 各種試行タイプの評価 (電通チャレンジタイプ [受変電設備工事])

## P: 計画

- 受変電・発動発電機の工事は、直轄での発注工事が少なく、地方公共団体発注の実績で参加をしている。(市発注の病院、火葬場、庁舎等の受変電・発々設備工事)
- 地方公共団体発注工事は、成績評定点の加点の対象としていないため、総合評価の点数が低くなり、結果として参加者が少ない状態になっている。
- 成績評定での加点は行わず、施工実績や地域内工事の実績で加点を行う。

### 競争参加資格

- 企業及び配置予定技術者ともに、標準と同様

### 対象工事

- 工事種別は、受変電設備工事 (受変電・発動発電機工事)

### 総合評価

- 技術評価点の配点は、企業の施工能力 (25点) + 配置予定技術者の施工能力 (15点) + 賃上げの実施を表明した企業等 (3点)
- 企業の施工能力については、施工実績と地域内工事の実績で評価
- 配置予定技術者の施工能力については、同種工事の経験と施工経験で評価

### 【電通チャレンジタイプ (受変電工事) の配点】

分類	評価項目	配点		
施工能力等	同種性の高い施工実績	15	最大25	
	国交省等発注の同種工事実績の工事成績評定	-		
	表彰	・優良工事等施工者表彰		-
		・コンクリート構造物品質コンテスト表彰		
		・下請企業表彰		
		・近畿建設リサイクル表彰		
		・インフラDX大賞(本省)		
		・工事成績優秀企業認定		
	・インフラDX認定			
	有用な新技術の活用	-		
	《ICTの活用(i-Construction)》	-		
	現場従事技能者の配置	-		
	コンクリート構造物品質コンテスト技能者表彰	-		
	ISO9000シリーズ認証取得	-		
	地域内工事の実績	10		
	災害協定の締結	-		
	建設業事業継続計画(BCP)認定の有無	-		
社会条件に配慮した工事の実績	-			
災害活動に対する表彰	-			
自由枠	-			
術配置の予定能力技	監理(主任)技術者等としての同種工事の経験	7.5	最大15	
	同種性の高い施工経験	7.5		
	同種工事の経験についての工事成績評定	-		
	技術者表彰	-		
	継続学習制度(CPD)	-		

評価項目	配点
賃上げの実施を表明した企業等	3

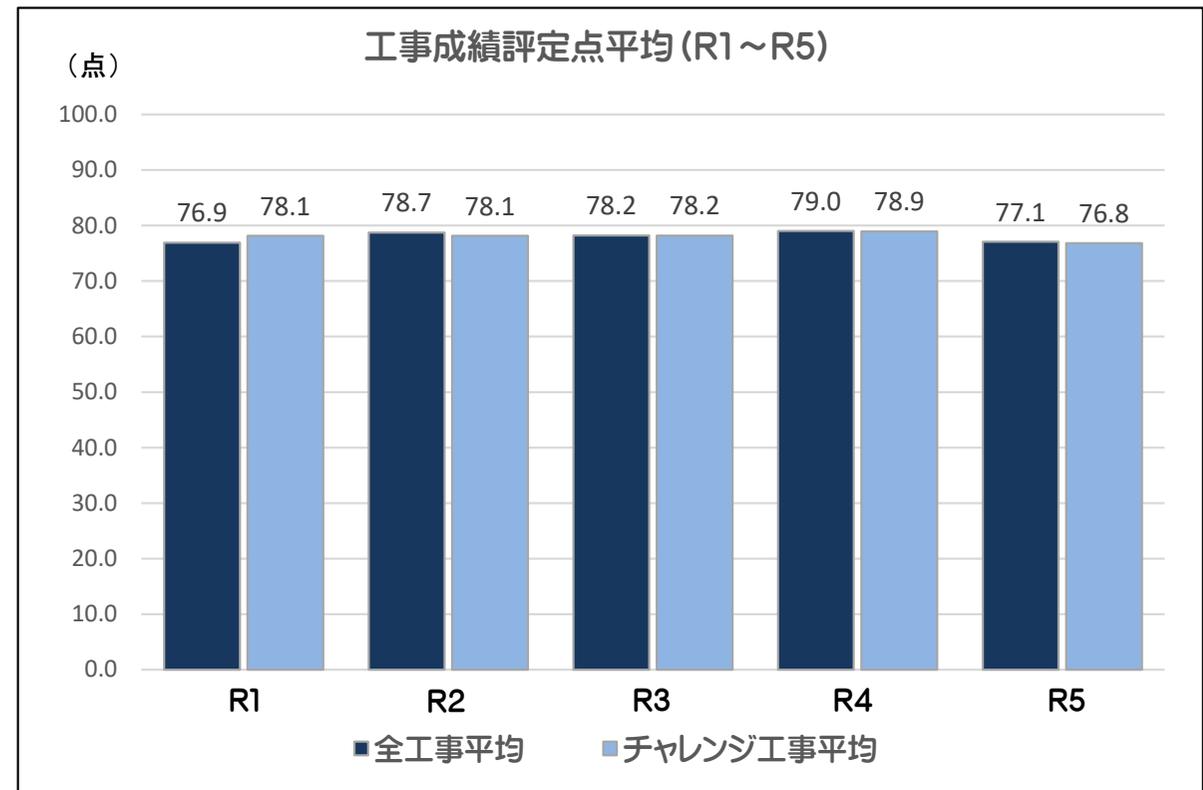
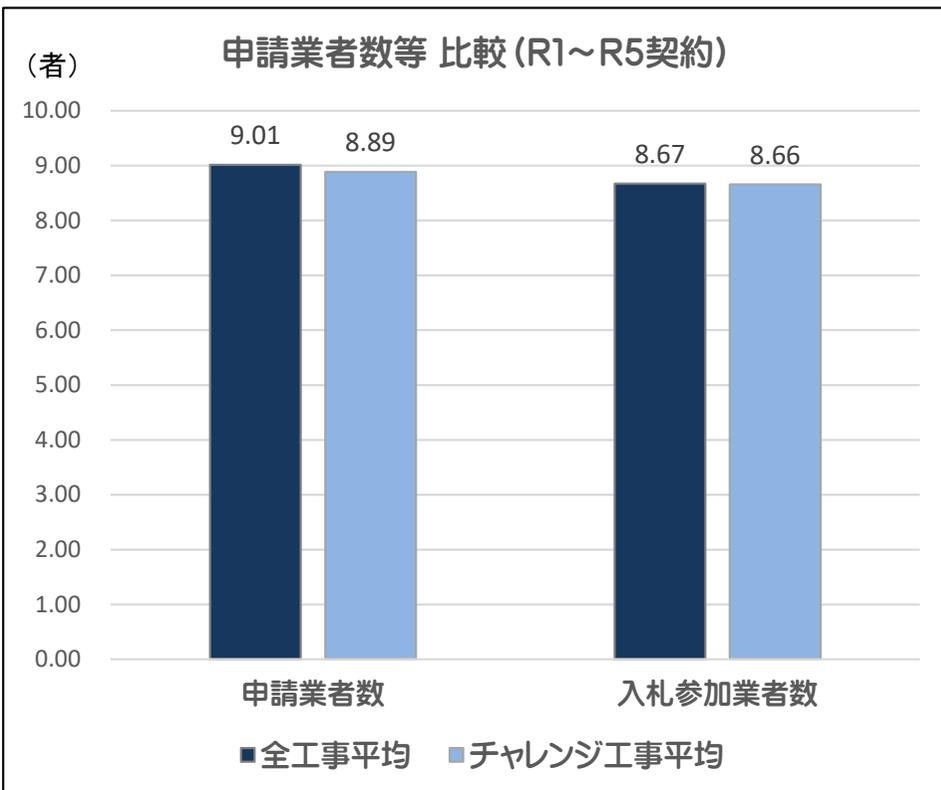
# 1. 各種試行タイプの評価 (電通チャレンジタイプ [受変電設備工事])

## D: 実施

- R元年度～R5年度に61件の工事を電通チャレンジ（受変電設備工事）タイプで発注した。

## C: 評価

- 電通チャレンジ（受変電設備工事）タイプで発注した工事の申請業者数及び入札参加業者数は、通常の発注方式で発注した工事とほとんど差がない状況だった。
- 工事成績評定については、通常タイプとほとんど差がなく品質に問題はないと考えられる。

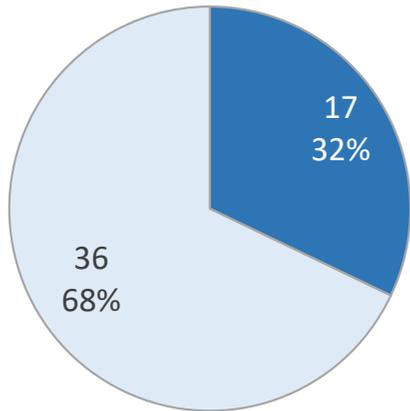


# 1. 各種試行タイプの評価 (電通チャレンジタイプ [受変電設備工事])

## C : 評価

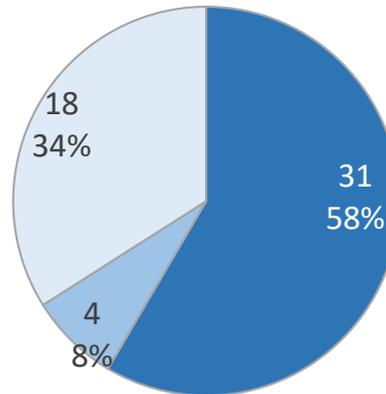
- 電通チャレンジ (受変電設備) 工事の入札参加者を対象にアンケートを実施した。97社に依頼し、53社からの回答を得た。
- アンケートの回答者は17社が受注実績がある社で、36社が受注実績のない社だった。
- 半数以上 (6割弱) の回答者から本試行タイプは目的に寄与しているとの回答を得た。「わからない」と回答した者を除けば目的に寄与していないと回答した社は4社であった。具体的には、「品質の高さを求める必要があるのに評価項目が少ない。」等の意見があった。
- ほぼ全ての社が今後も電通チャレンジ (受変電設備) 工事に参加したいとの回答だった。

アンケート回答者の属性



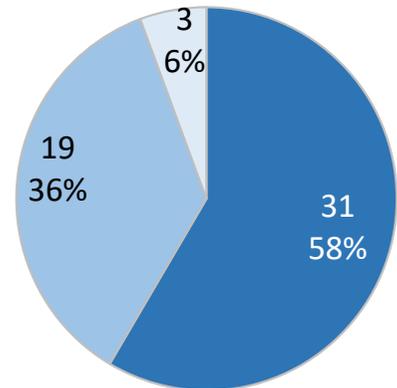
- 電通チャレンジタイプの受注実績がある
- 電通チャレンジタイプの受注実績がない (入札に参加したが落札できなかった)

試行タイプが目的に寄与しているか



- そう思う
- そう思わない
- わからない

今後の電通チャレンジタイプ (受変電設備) の工事に参加したいか



- 参加したい
- どちらかと言えば参加したい
- 参加したくない

アンケート概要

- ・ 調査期間：R6.10.4～R6.10.18
- ・ 対象者数：97社

- ・ 対象者：過去に電通チャレンジ (受変電設備工事) タイプの入札に参加した者
- ・ 調査手法：WEB調査

## A : 対応

### 継続

- 工事の参加者数及び品質に問題はなく、アンケート結果から試行実施に肯定的な意見が多く目的に寄与していると考えられることから引き続き試行を継続する。

# 1. 各種試行タイプの評価 (電通チャレンジタイプ [通信設備工事])



## P: 計画

- 建設業法における電気通信工事の資格を持った技術者に対して**監理（主任）技術者としての経験を積ませる**ことを目的に試行。
- 配置予定技術者について、同種工事の経験は問わない。
- 総合評価において、技術者の能力等は求めずに、企業の施工能力のみで評価。

### 競争参加資格

- 配置予定技術者の要件として、同種工事の施工経験は問わない。

### 対象工事

- 工事種別は、通信設備工事（CCTV設備・情報板設備・光ケーブル敷設工事等）

### 総合評価

- 技術評価点の配点は、企業の施工能力（25点）+ 賃上げの実施を表明した企業等（2点）
- 企業の施工能力のうち、表彰については評価しない
- 工事成績評価による評価を『近畿地整発注工事の過去4年間の平均点』から、『競争参加資格要件として提出した工事の工事成績評価（国交省等発注工事に限る）』に変更
- 配置予定技術者の施工能力については、評価しない

【電通チャレンジタイプ（通信設備工事）の配点】

分類	評価項目	配点	
企業の施工能力等	同種性の高い施工実績	4	最大25
	<b>国交省等発注の同種工事实績の工事成績評価</b>	4	
	表彰 ・優良工事等施工者表彰 ・コンクリート構造物品質コンテスト表彰 ・下請企業表彰 ・近畿建設リサイクル表彰 ・インフラDX大賞(本省) ・工事成績優秀企業認定 ・インフラDX認定	-	
	有用な新技術の活用	最大1(2)	
	《ICTの活用(i-Construction)》	《2》	
	現場従事技能者の配置	<b>最大4(0)</b>	
	コンクリート構造物品質コンテスト技能者表彰		
	ISO9000シリーズ認証取得	<b>1(2)</b>	
	地域内工事の実績	3	
	災害協定の締結	<b>1(2)</b>	
	建設業事業継続計画(BCP)認定の有無	<b>1(2)</b>	
	社会条件に配慮した工事の実績	最大3	
	災害活動に対する表彰	最大2	
	自由枠	最大2	
	術配置の予定能力技	監理(主任)技術者等としての同種工事の経験	
	同種性の高い施工経験	-	
	同種工事の経験についての工事成績評価	-	
	技術者表彰	-	
	継続学習制度(CPD)	-	

※1：企業の施工能力欄の（ ）内は、現場従事技能者の対象工種がない場合  
 ※2：企業の施工能力の欄《 》内は、I-CON活用工事のみ記載

評価項目	配点
賃上げの実施を表明した企業等	<b>2</b>

# 1. 各種試行タイプの評価 (電通チャレンジタイプ [通信設備工事])

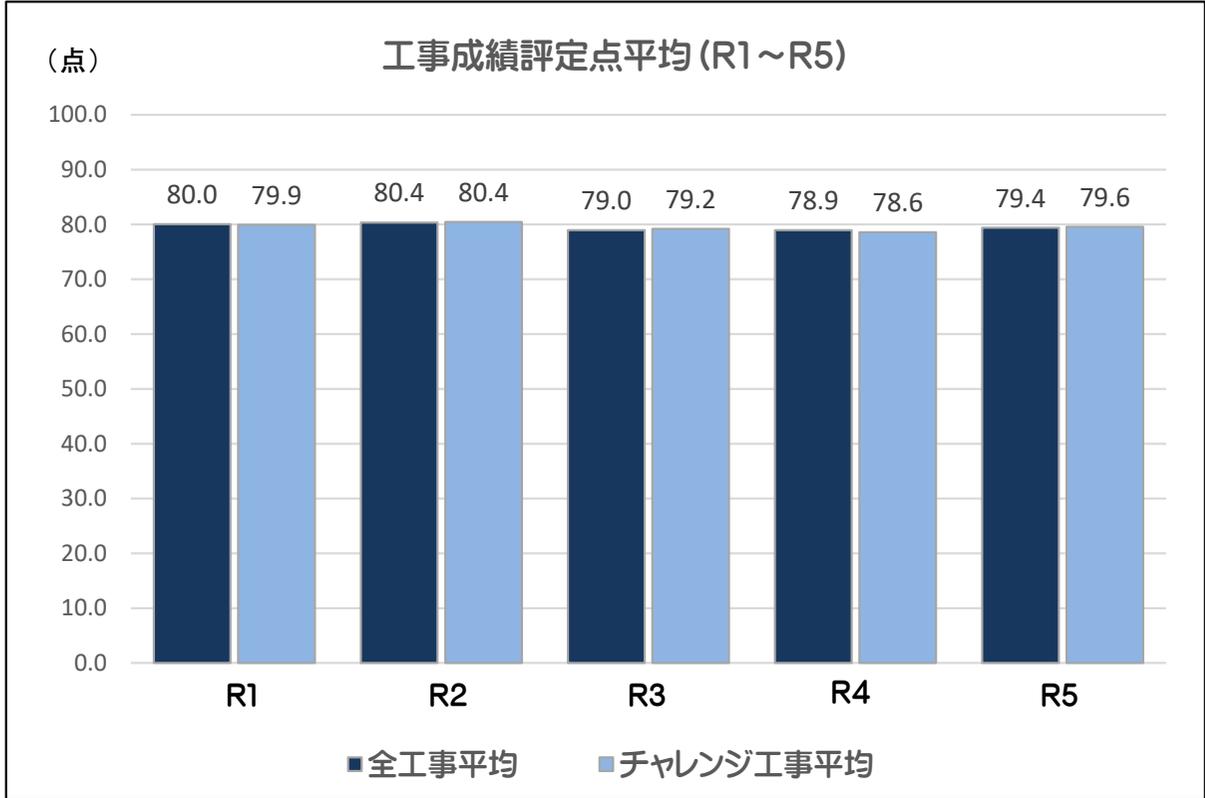
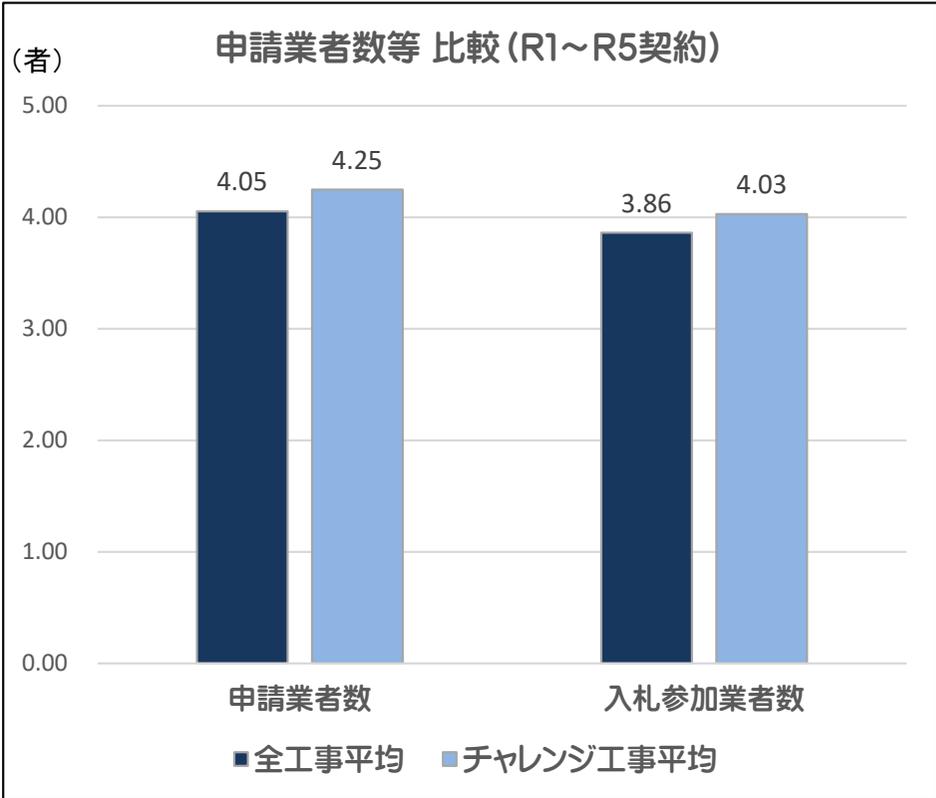


## D: 実施

- R元年度～R5年度に177件の工事を電通チャレンジ（通信設備工事）タイプで発注した。

## C: 評価

- 電通チャレンジ（通信設備工事）タイプで発注した工事の申請業者数及び入札参加業者数は、通常の発注方式で発注した工事より若干多い状況だった。
- 工事成績評定については通常タイプとほとんど差がなく品質に問題はないと考えられる。

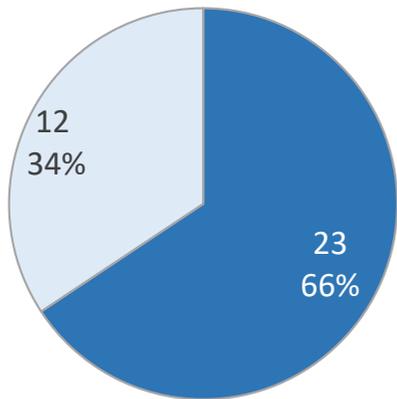


# 1. 各種試行タイプの評価 (電通チャレンジタイプ [通信設備工事])

## C : 評価

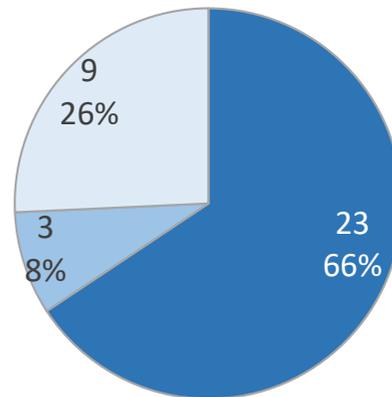
- 電通チャレンジ (通信設備) 工事の入札参加者を対象にアンケートを実施した。58社に依頼し、35社からの回答を得た。
- アンケートの回答者は23社が受注実績がある社で12社は受注実績のない社だった。
- 約65%の回答者から本試行タイプは目的に寄与しているとの回答を得た。「わからない」と回答した者を除けば目的に寄与していないと回答した社は3社であった。具体的には「企業の施工能力が高い企業に恩恵がある。」等の意見があった。
- ほぼ全ての社が今後も電通チャレンジ (通信設備) 工事に参加したいとの回答だった。

アンケート回答者の属性



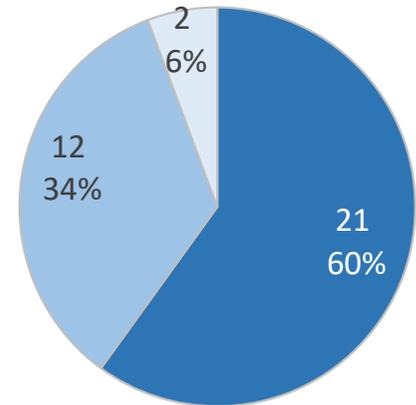
■ 電通チャレンジタイプの受注実績がある  
□ 電通チャレンジタイプの受注実績がない (入札に参加したが落札できなかった)

試行タイプが目的に寄与しているか



■ そう思う □ そう思わない □ わからない

今後の電通チャレンジタイプ (通信設備) の工事に参加したいか



■ 参加したい □ どちらかと言えば参加したい □ 参加したくない

### アンケート概要

- ・ 調査期間：R6.10.4～R6.10.18
- ・ 対象者数：35社

- ・ 対象者：過去に電通チャレンジ (通信設備工事) タイプの入札に参加した者
- ・ 調査手法：WEB調査

## A : 対応

### 継続

- 工事の参加者数及び品質に問題はなく、アンケート結果から試行実施に肯定的な意見が多く目的に寄与していると考えられることから引き続き試行を継続する。

# 1. 各種試行タイプの評価(参加機会拡大タイプ)

## P:計画

- 一般土木B等級を対象とする発注件数は年間で10件程度であり、入札参加企業の近畿地整での工事成績評定を有する企業数が減少している。
- 入札参加企業の参加意欲を促進するため、評価項目における企業の工事成績について「**近畿地整における過去4年間の平均点**」から全地整における「**同種工事实績の工事成績評定**」での評価に変更

### 競争参加資格

- 企業及び配置予定技術者ともに、標準と同様

### 対象工事

- 本官発注工事のうち、非WTO工事

### 総合評価

- 施工能力評価型の技術評価点の配点  
企業の施工能力(25点) + 配置予定技術者の施工能力(15点) + 賃上げの実施を表明した企業等(3点)
- 技術提案評価型の技術評価点の配点  
技術提案(30点) + 企業の施工能力(15点) + 配置予定技術者の施工能力(15点)  
+ 賃上げの実施を表明した企業等(4点)
- 企業の施工能力について、**国交省等発注の同種工事实績の工事成績評定**で評価

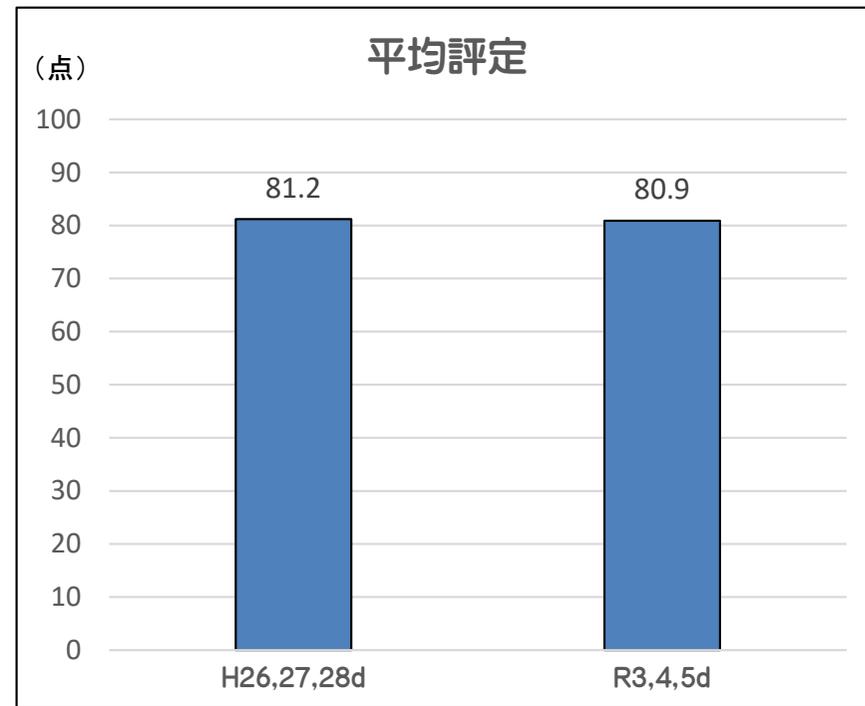
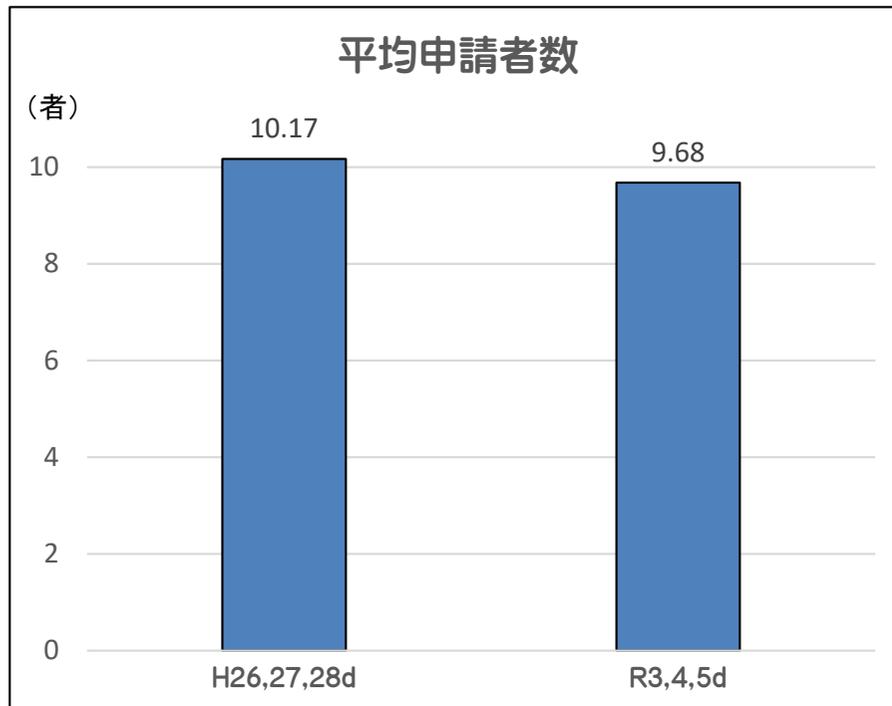
# 1. 各種試行タイプの評価（参加機会拡大タイプ）

## D：実施

- 本官以上の非WTO工事（3億円以上8億1000万円未満）については、標準で「同種工事実績の工事成績評定」を評価項目として採用し発注。

## C：評価

- 本試行タイプ以前（平成28年度以前）と以後、各3年間を対象工事として比較した結果、平均申請者数及び平均評定に大きな変動はない。



## A：対応

### 標準方式に移行

- 標準項目として採用して発注している状況、平均申請者数及び平均評定に鑑み、試行としての位置付けは廃止し、本評価項目を標準採用する。

## 2. 新たな取り組み（自治体実績評価タイプ（若手・女性技術者評価型）の新設）

- 近畿地方整備局では、**担い手の確保を目的**に配置予定技術者に40才以下の若手技術者もしくは女性技術者を配置する場合に加点を行う「**若手・女性チャレンジタイプ**」を試行を実施中。
- 担い手確保の裾野を広げるため、新規参入促進を目的に実施している自治体実績評価タイプの一部で若手技術者等を配置した場合に加点をする「**自治体実績評価タイプ（若手・女性技術者評価型）**」を新設する。

【若手・女性チャレンジタイプの配点】標準配点

分類	評価項目	配点	
施工能力等	同種性の高い施工実績	3	最大10
	近畿地整の過去の4年間の工事成績評定平均点	3	
	表彰	最大4	
	・優良工事等施工者表彰 ・コンクリート構造物品質コンテスト表彰 ・下請企業表彰 ・近畿建設リサイクル表彰 ・インフラDX大賞(本省) ・工事成績優秀企業認定 ・インフラDX認定		
	有用な新技術の活用	最大1(2)	
	《ICTの活用(i-Construction)》	《2》	
	現場従事技能者の配置	最大3(0)	
	コンクリート構造物品質コンテスト技能者表彰		
	ISO9000シリーズ認証取得	－(1)	
	地域内工事の実績	3	
	災害協定の締結	－(1)	
	建設業事業継続計画(BCP)認定の有無	1	
	災害活動に対する表彰	最大2	
	地域自由枠	最大3	
配置予定能力技術者の	監理(主任)技術者等としての同種工事の経験	3	最大15
	同種性の高い施工経験	3	
	同種工事の経験についての工事成績評定	5	
	技術者表彰	2	
	継続学習制度(CPD)	2	
	《舗装施工管理技術者資格》 ※当該工事の工事種別がAs舗装の場合	《2》	
	<b>40歳以下又は女性の監理(主任)技術者を配置</b>	<b>15</b>	

【自治体実績評価タイプの配点】

分類	評価項目	配点	
施工能力等	同種性の高い施工実績	－	最大15 I-CON 活用工事 の場合でも 最大15点
	近畿地整の過去の4年間の工事成績評定平均点	－	
	表彰	－	
	・優良工事等施工者表彰 ・コンクリート構造物品質コンテスト表彰 ・下請企業表彰 ・近畿建設リサイクル表彰 ・工事成績優秀企業認定 ・インフラDX認定		
	有用な新技術の活用	最大2	
	《ICTの活用(i-Construction)》	《2》	
	現場従事技能者の配置	最大2	
	コンクリート構造物品質コンテスト技能者表彰	－	
	ISO9000シリーズ認証取得	－	
	地域内工事の実績	－	
	災害協定の締結	2	
	建設業事業継続計画(BCP)認定の有無	2	
	社会条件に配慮した工事の実績	－	
	災害活動に対する表彰	最大2	
自由枠	－		
<b>受注工事比率</b>	<b>最大5</b>		
配置の予定能力技術	監理(主任)技術者等としての同種工事の経験	－	－
	同種性の高い施工経験	－	
	同種工事の経験についての工事成績評定	－	
	技術者表彰	－	
	継続学習制度(CPD)	－	
	《舗装施工管理技術者資格》	－	

「自治体実績評価タイプ(若手技術者評価型)」の場合  
 ・若手(40歳以下)の監理技術者(又は主任技術者)  
 ・女性の監理技術者(又は主任技術者)  
 を配置すると申請した場合、5点加点  
 ※現場代理人、担当技術者の配置については加点しない。

### 【目的】

将来にわたる公共工事の品質確保・持続可能な建設業が求められる中、地域の安心・安全を守るうえで、建設業の担い手確保は喫緊の課題であるとともに、魅力ある産業とするための施策として、この度「若手技術者表彰」制度を創設することとした。  
(令和7年度完了工事・業務を対象に、令和8年度表彰から適用)

### 【概要】

- 公告日等の時点において40歳以下の技術者のうち、工事においては現場施工に従事した監理(主任)技術者で、業務においては管理(主任)技術者又は主任担当者を対象に、優秀な成績を修めた者の中から表彰する。

## 2. 新たな取り組み（S型（技術向上提案型）の新設）

### 総合評価落札方式 技術提案評価S I型(仮称)について

#### 発注関係事務の運用に関する指針改正案

工期、安全性、生産性、脱炭素化などの価格以外の要素も考慮して総合的に価値の最も高い資材、機械、工法等を採用するよう努める

- 発注者において、標準的な仕様(案)を設定できるが、競争参加者の技術提案に基づく仕様や工法の変更により、更なる品質向上(総合的に価値の最も高い資材等の採用を含む)が期待される工事を対象に適用。
- 仕様や工法の変更による品質向上が期待される事項について、「技術向上提案」を求める。
- 提案内容については、当初契約時の仕様には反映せず、発注者指示により変更契約の対象とすることを基本とする。その際、技術向上提案の採用にかかる契約変更金額は、当面は予定価格の5%を上限とする。

	施工能力評価型		技術提案評価型				
対象工事	技術的工夫の余地が少ない工事		技術的工夫の余地が大きい工事				
技術提案内容	II型	I型	SII型 (現行S型)	SI型 (試行)	AIII型	AII型 ※A型再整理	AI型
		簡易な施工計画	施工上の特定の課題等 に対する工夫等	<div style="border: 2px solid red; padding: 2px;">                     価値の最も高い新技術、資材、機械、工法等                 </div>	工事目的物の設計変更や高度な施工技術等		
		簡易な施工計画を可・不可の二段階で評価			部分的変更	複数の有力案	通常案は満足できない
評価方法	企業・技術者の能力等(実績)を点数評価		技術提案を点数評価				
予定価格	標準案に基づき作成			<div style="border: 2px solid red; padding: 2px;">                     新技術、資材、機械、工法等に係るコストは予定価格に入れない                 </div>	技術提案に基づき作成		

### 技術提案評価S I型(仮称)の進め方(案)



○令和7年度からの試行開始を目標に、具体の運用の検討や対象工事の選定等を実施

#### ● 想定している設定テーマ例

発注者において標準的な仕様（案）を設定できる工事の中で、競争参加者の技術提案に基づく仕様や工法の変更により、更なる品質向上（総合的に価値の最も高い資材等の採用を含む）が期待されるテーマとして、以下の例を参考に各工事で設定。

- 1) 工期延期のリスク回避（施工性の高い工法への変更）
- 2) 安全性の向上（交通渋滞・交通事故発生の防止、作業員の危険防止）
- 3) 構造物の新設時における、点検困難箇所への維持管理性の高い工法等の採用
- 4) カーボンニュートラルに資する工法等の採用 ※脱炭素化への寄与の程度の評価手法は別途策定

#### ● 発注方法イメージ

- ・ 提案には「技術向上提案の実施にかかる概算費用」を記載いただく一方、入札金額には当該提案に要する費用を含めず当初仕様で入札する。
- ・ 発注者は、技術向上提案について「適格性」「実現性」等の観点から評価し、技術点の一部として総合評価の点数に加算
- ・ 当該技術向上提案を採用するか否かは、第三者委員会に諮った上で発注者が決定
- ・ 発注者が採用を決定した技術向上提案については、当初契約後に発注者指示の契約変更（増額）を行い、受注者には当該提案内容の履行義務が生じる

※詳細については現在検討中のため、今後変わらう

# 3. 評価方法の見直し（WLB認定制度による加点）

## 総合評価におけるWLB推進企業への加点の拡大

### 発注関係事務の運用に関する指針改正案

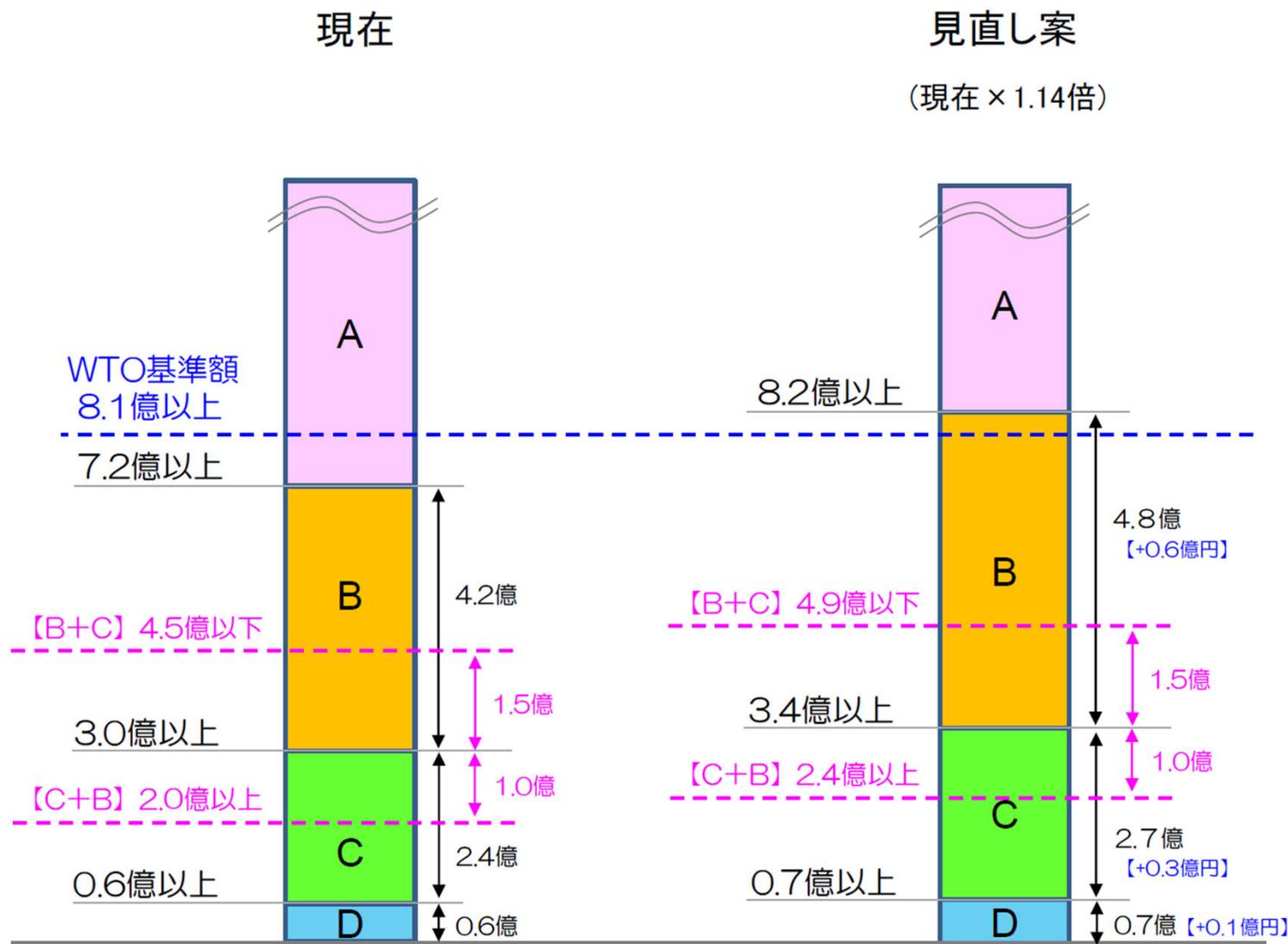
ワーク・ライフ・バランス等推進企業(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(平成27年法律第64号)、次世代育成支援対策推進法(平成15年法律第120号)、青少年の雇用の促進等に関する法律(昭和45年法律第98号)に基づく認定の取得企業や女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく計画を策定した中小企業)を必要に応じて評価項目に設定

- 平成30年度から、一般土木A等級等の工事において、認定制度を活用した加点評価を実施
- 令和6年1月より、加点対象を一般土木、建築A・B等級等まで拡大
- 今後、全ての公共工事等(建設コンサルタント業務等を含む)における総合評価落札方式、企画競争方式(プロポーザル方式を含む)に拡大する予定



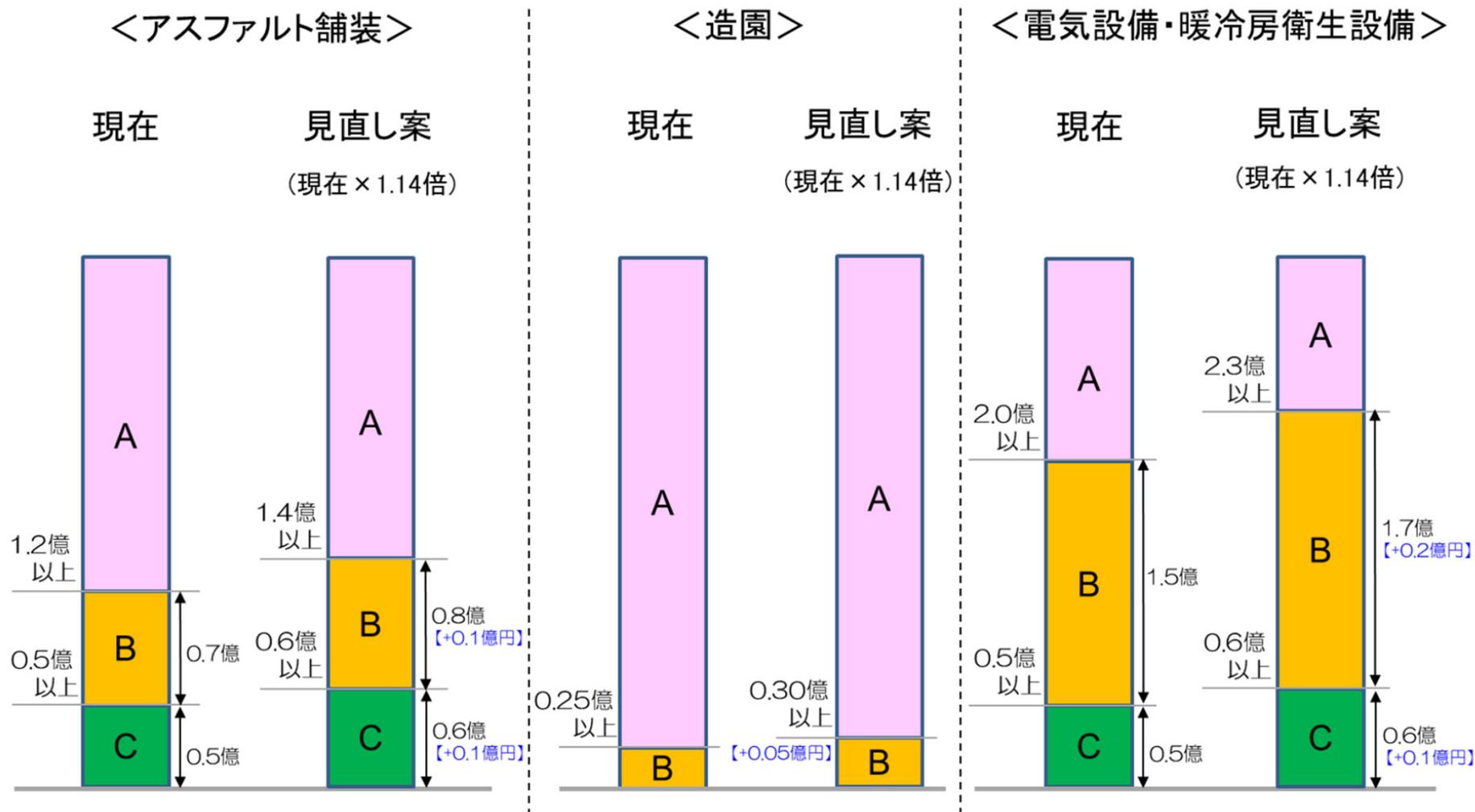
# 4. その他（発注標準の見直しについて）

## 【発注標準の見直し検討(案)】 一般土木工事・建築工事 国土交通省



# 4. その他（発注標準の見直しについて）

【発注標準の見直し(案)】アスファルト舗装、造園、電気設備・暖冷房衛生設備  国土交通省

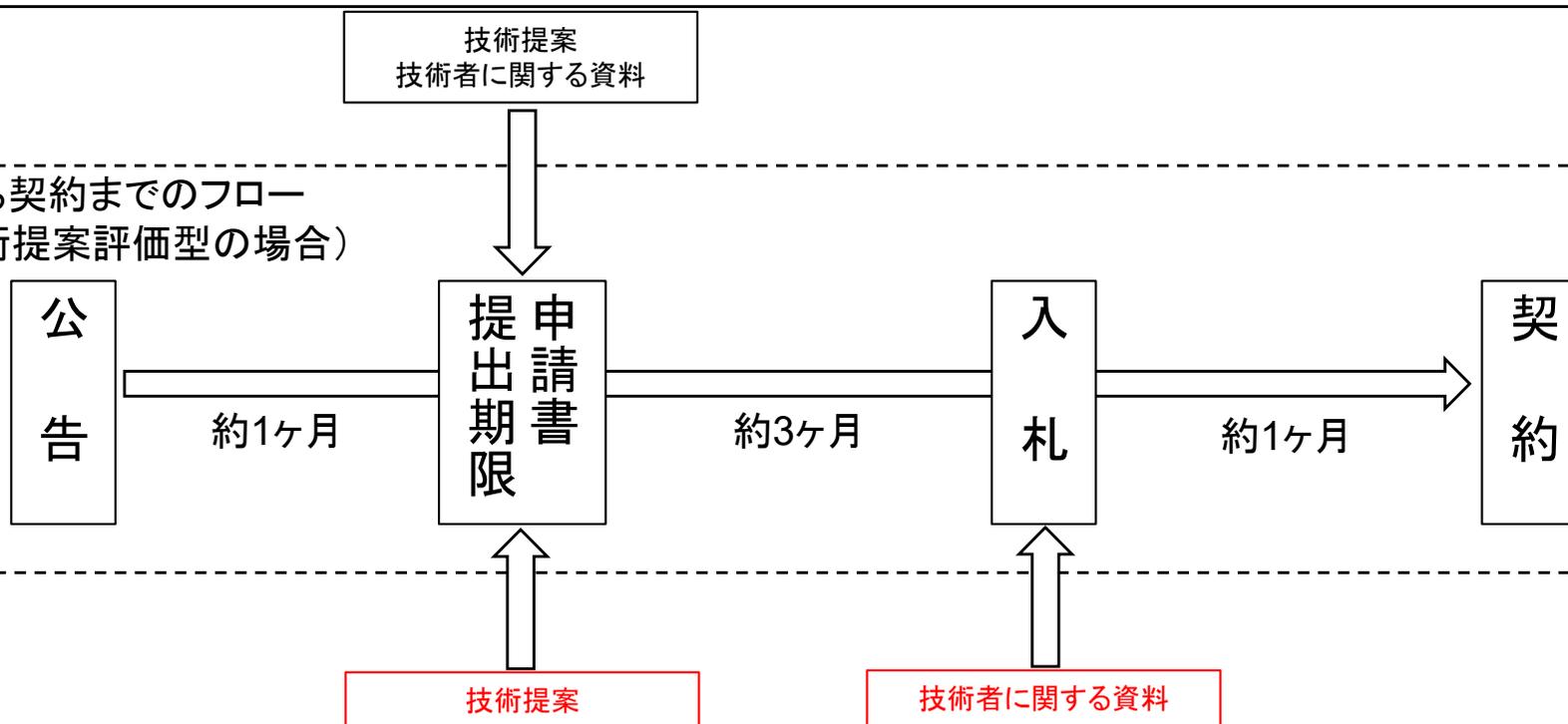


# 4. その他（受発注者の負担軽減を図る取り組みの拡大）

- 令和5年度よりWTO以上の一括審査方式工事を対象に配置予定技術者を入札時に申請する方式を試行。
- 負担軽減の推進及び昨今の技術者不足への対応を目的に試行対象の工事をWTO以上の一括審査方式に加え、一括審査ではないWTO以上の一般土木工事まで拡大。
- 入札期限までに配置予定技術者を申請することとし、申請可能な人数は1名のみとする。

現行

工事の公告から契約までのフロー  
(WTO以上技術提案評価型の場合)



変更案

対象工事

技術提案評価型（WTO）

競争参加資格

➤ 競争参加資格の要件として**配置予定技術者の『同種工事の経験』と『資格』**を求めるが、**特定の技術者の申請を必要としない。**

審査

➤ **入札期限までに配置予定技術者に関する書類を提出**してもらい競争参加資格を審査。  
⇒ 配置予定技術者の**競争参加要件を満たさなければ入札を「無効」**とする。

適用開始

令和7年4月1日以降公告工事から開始予定